

国語科

1 ねらい

国語科における言語活動のねらいを2点説明します。

まず、1点目は、国語科として言語の教育としての立場を一層重視し、日常生活はもちろんのこと各教科等の学習の基本ともなる、実生活で生きてはたらく言葉の力を身に付けることです。それは言い換えると、説明、批評、編集、討論などの言語活動を行う能力の育成が大切なのだということです。ただし、授業において、国語科各科目の内容における「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域における指導事項と、単元や授業の目標達成のための手立てとしての、話す、書くといった言語活動を明確に区別しておく必要があります。国語の授業だから、何をやっても言語活動だという思い込みを横に置き、適切に国語の能力を育成するための年間指導計画の作成をしましょう。

2点目として、思考力・判断力・表現力等の育成があげられます。これらの力は、生徒が自ら考え、自らの言葉で表現する学習によって育成されます。近年、認知心理学等の知見から、言語で表現することの重要性が明らかになっています。頭の中で考えていることを他者に伝えるには、言語に置き換える必要があります。言語に置き換えることによって、まとまりのない思考が整理され明確になります。さらに、考えたことを他者に伝える際には、筋道立てて表現しなくてはなりません。つまり、発表、解説、論述などの話す・書く活動によって、思考は整理され、論理的になるということです。そのためにも、授業は生徒が主体的に学習に取り組めるように構成することです。ややもすると教師が文章の内容や表現の仕方に関する説明をしてしまい、生徒は教師の説明を知識として覚えるという学習が多くなります。それを避けるには、単元のはじめに、目標（身に付ける言語能力）・内容（教材）・方法（言語活動）を生徒に伝えると良いでしょう。それによって、生徒は見通しをもって主体的に学習を進めることができます。

2 国語科における言語活動

言語活動を充実させるための留意点を、国語科に即して3点述べます。

留意点① 生徒が考え、表現する時間を確保しましょう。

教壇に立つと一分間待つということが長く感じられるものです。タイマー等を利用して時間をきちんと確保することをおすすめします。生徒の中には、教師の発問に対して即座に答えることが苦手な生徒や、頭の中ではわかっているがいざ指名されると緊張して頭の中が真っ白になってしまう生徒がいます。そのような生徒に対しては、たとえ口頭で答えさせる場合でも、即答させるのではなく、ある程度の時間を確保する、答えや考えをノートに記述させるといった対応が求められます。

留意点② 教師がその言語活動に取り組んでおきましょう。

たとえば、ワークシートを利用する場合、教師が自分で記入してみることによって、「何を書いたらよいのかわからない」、「スペースが狭すぎる（広すぎる）」、「指示が抽象的すぎる（わかりにくい）」、「時間がかかりすぎる」等の問題点が浮かんできます。

留意点③ 具体的な評価規準を作成しておきましょう。

文や文章で答えさせる場合、教師が具体的な評価規準を作成しておくことが必要です。必要不可欠な語句や内容を示す評価規準を作成し、生徒に示すことが必要です。評価規準があいまいなままだと、生徒は自分の考えが本当に正しいのかどうか判断がつかず、結局教師の答えをノートに写し、それを覚えることになってしまいます。また、評価規準を作成しておくことで、教師自身が何をどのように指導すればよいかを明確にすることができます。

3 Q & A

Q 1 国語科の学習指導要領には「言語活動例」が提示されています。「言語活動例」とは、どういうものですか。

A 1 「言語活動例」とは指導者が「言語活動」を考える際の例です。単元の指導目標を達成するのにふさわしい言語活動を「言語活動例」を具体化して設定します。言語活動例について留意することを3点述べます。

- ① 「言語活動例」は一般的な記述となっていますので、指導事項や教材にあわせて具体化することが必要です。
- ② 「指導事項」のア～オと「言語活動例」ア～オは対応していません。
- ③ 「言語活動例」にあげられているすべての言語活動を行う必要はありませんし、「言語活動例」以外の言語活動を考えることも可能です。

Q 2 言語活動は、指導事項を達成するための手段であり、目的ではないと言われますが、どういうことでしょうか。

A 2 国語科学習指導要領の「言語活動例」で説明いたします。

「国語総合C 読むこと」には、ア「脚本にする、書き換える」ウ「話し合う」などの言語活動が例示されています。これらの言語活動は、「読むこと」の指導事項を指導するためです。文章中の表現を根拠として考え、表現することを生徒に意識させる必要があります。その点を明確にしておかないと、生徒は、文章とはかけ離れた内容を話したり、書いたりすることになってしまいます。

Q 3 国語科では、言語活動を通して指導することが大切だと言われます。この場合の「通して」とは、どういうことですか。

A 3 「通して」とは、「単元を通して」という意味です。単元のはじめに、目標（身に付けさせたい言語能力）、内容（教材）、方法（言語活動）を生徒に伝えます。生徒は、言語活動を意識しながら学習を進めていくこととなります。単元の終末段階で、突然言語活動を指示することのないように注意してください。

4 学習指導の流れ

国語－1（国語総合）歌物語の和歌に対して返歌をつくる事例

1 単元名：『伊勢物語』「東下り」		
2 単元の目標 古典に描かれた登場人物の心情を表現に即して読み味わう。		
3 取り上げる言語活動と教材 (1) 言語活動 主人公の「男」の和歌に対して返歌をつくる。 (2) 教 材 『伊勢物語』「東下り」 ※「東下り」の中で「男」の詠んだ和歌は四首である。そのうち、「時知らぬ山は富士の嶺いつとてか鹿の子まだらに雪の降るらむ」は叙景歌なので返歌をつくる対象とはしない。よって、以下の三首について返歌を作成する。 A から衣きつつなれにしつましあればはるばるきぬる旅をしぞ思ふ B 駿河なる宇津の山辺のうつつにも夢にも人にあはぬなりけり C 名にし負はばいざ言問はむ都鳥わが思ふ人はありやなしやと なお、Bの歌については、京の女性に手紙として贈られた歌であるため、返歌をつくる立場は「京の妻」に限定する。		
4 評価規準 【関心・意欲・態度】 ・和歌に込められた「男」の思いを読み取り、返歌をつくらうとしている。 【読むこと】 ・和歌に込められた「男」の思いを読み取り、返歌をつくっている。 【知識・理解】 ・返歌のきまりを理解している。		
5 主な学習活動 (1) 単元の展開		
	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点
第1次	<ul style="list-style-type: none"> ・「東下り」の内容を表現に即して正確に理解する。 ・助詞の用法や助動詞の意味などの文法事項を理解する。 ・和歌の修辞法について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○男の歌に対して返歌を作ることで、男の詠んだ歌の内容や表現について読みを深めるといふねらいを意識させる。

<p>第2次</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「東下り」章段の内容をノートを見て振り返る。 ・返歌の決まりを理解する。 ・「男」が詠んだ三首の和歌に対して、学習プリント①(資料1)に従って返歌をつくる。 	<p>○恋歌を詠むことに恥ずかしさを感じる生徒もいると思われる。そこで、自分の気持ちを詠むのではなく、「京の女」あるいは「同行の友」になりきって詠むように伝える。</p> <p>○返歌の決まり (1 贈られた和歌の心情に対応していること。2 贈られた和歌の語句を用いていること) を説明し、返歌を作る上で注意点とする。</p>
<p>第3次</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ内で返歌を読み合い、代表作を選ぶ。 ・グループごとに代表作を板書して発表する。 ・各グループの代表作について、学習プリント②(資料2)を用いて相互評価を行う。 	<p>○代表作についてはグループ員で推敲してもよいことを伝える。</p> <p>○以下の観点で相互評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「男」の和歌に対応していること。 2 「男」の和歌に用いられている語句を用いていること。 3 修辞技法等の工夫をしている

資料1 学習プリント①(返歌作成)
の生徒記入例

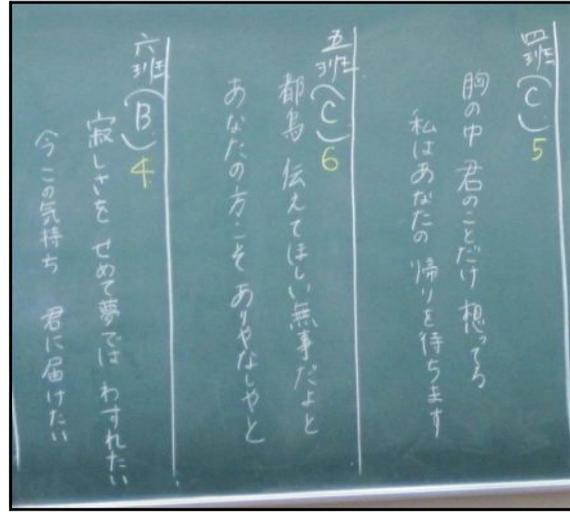
<p>④ ②で選んだ立場で、Aの歌に対する返歌を作ってみよう。 祈ってる 遠く離れたこの地から、君が元気でいられるように</p>	<p>③ どのような思いを返歌に込めようと考えますか。 あなたは今どこで何をしているのか。 元気でいるかどうか。</p>	<p>② どの歌に対して返歌を作ろうと思います。一緒に旅をしている友、あるいは京にいる妻、どちらの立場で返歌を作ろうと思いますか。 どちらか一つ選び、印を付けてください。 □一緒に旅をしている友 □京にいる妻</p>	<p>① Cの和歌に込められた「男」の思いを書きなさい。 恋しい人が無事に過しているかどうか。 C 名にし負はばいざ言問はむ都鳥 わが思ふ人はいりやなしやと</p>
----------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------

資料2 学習プリント②(相互評価)
の生徒記入例

5	4	3	2	1	班 (A B C)	立場 (友・妻)	返歌に込めた思い	返歌	返歌の工夫	返歌の 評価
C	C	A	B	A		妻	ねを愛しく思っている あなたが近くにいない て寂しい	長旅であなたいないこの都 独りぼっちで私も寂しい	リズム	◎
妻 あなたは？	妻 はきこるか	友 あなたが無事に 過していること。	妻 一いしい	妻 この京に我が身はあるが心なし 心はいつもあなたの夢に		妻	返歌に込めた思い	返歌	返歌の工夫	返歌の 評価
あなたは何を 思っているか？	わたしは「男」 を思っているか	男と同じ気持ちで いること。	君もか、僕も同じさ奇偶だね あなたの気持ちよく分かります	私にいつもあなたの夢に 心はいつもあなたの夢に		妻	返歌に込めた思い	返歌	返歌の工夫	返歌の 評価
あなたは何を 思っているか？	都鳥 伝えてほしい無事だよ あなたは何を思っているか	胞の中君のことだけ想ってる 私はあなたの帰りを待ちます	君もか、僕も同じさ奇偶だね あなたの気持ちよく分かります	私にいつもあなたの夢に 心はいつもあなたの夢に		妻	返歌に込めた思い	返歌	返歌の工夫	返歌の 評価
◎	○	○	◎	○		妻	返歌に込めた思い	返歌	返歌の工夫	返歌の 評価



グループ活動の様子



代表作の板書

【言語活動充実の工夫】

- 返歌を作るという条件を設定することで、主人公である「男」の思いを第三者としてではなく、当事者として受け止めることになり、「男」の思いを実感を伴って読み取ることができる。
- 「京の妻」や「一緒に旅をする友」の立場で返歌を読むことによって、物語を別の視点から読み取ることになり、生徒の想像力を豊かにすることができる。
- 返歌の作成には、贈られた和歌の心情に対応していること、贈られた和歌の語句を使用することなどのきまりがある。このきまりに従うことが、「男」の心情をより深く読み取ることにつながる。
- 筆の進まない生徒については、発想のヒントとして次のような語句を提示する。

◇「京の妻」の立場に立った場合の発想	願望・依頼・反発・批判・疑問
◇「同行の友」の立場に立った場合の発想	共感・願望・依頼

指導の実際

返歌を作成できた生徒は、A歌32/32名、B歌29/32名、C歌31/32名であった。B歌では3名の生徒が57577の定型から大きく外れていた。C歌の1名は空欄であった。

作成した立場をみると、A歌では「京の妻」19名、「同行の友」14名、C歌では「京の妻」21名、「同行の友」10名であった。贈られてきた歌の語句を返歌で用いている生徒はA歌19/32名（使用語句 旅、思ふ、唐衣、遙か）、B歌15/32名（使用語句 夢、うつつ）、C歌18/32名（使用語句 都鳥、無事）であった。

指導者による成果と課題

(1) 成果

返歌をつくる活動は、和歌に込められた詠み手の思いをつかませることや修辞法を理解させる上で有効であったと思います。和歌を読むだけではなく、実際に返歌をつくることで、生徒は和歌のすばらしさに気付いたようです。

(2) 課題

- ①グループ学習の時間をまとめて長くとりすぎました。互いに返歌を読み合い代表作を

選ぶ時間、代表作を推敲していく時間を区切ってもよかったですと思います。

②グループごとに全体の前で代表作を発表させました。恥ずかしがったり、声が小さかったりして、聞き取りにくい部分もありました。

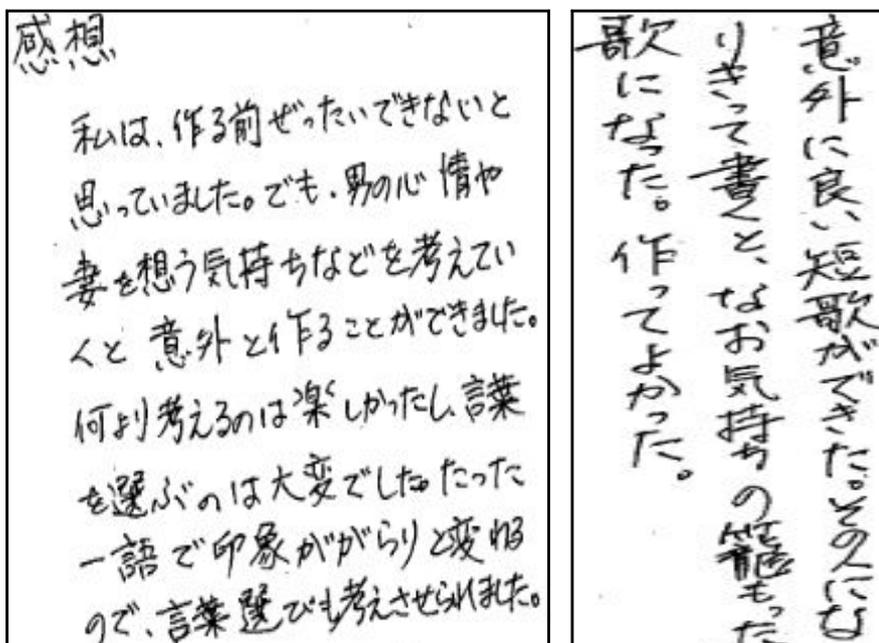
こんな教材でも返歌をつくる活動が有効です

和歌の学習で有効です。「万葉集」「古今和歌集」などの和歌、『伊勢物語』『大和物語』などの歌物語、『土佐日記』『蜻蛉日記』等の日記文学等、和歌が収載されている作品でも可能です。返歌が詠まれている場合でも、あなたならどう作るかという観点で作成させることができます。

生徒の感想

単元終了後の生徒の感想です。（32名分。複数回答あり）

意外とうまく返歌をつくることができた。	13名
返歌のきまりにそって歌をつくるのは楽しい。	11名
登場人物の気持ちをより理解できた。	7名
達成感があった。	7名
他の人の歌を聞いていい歌だなあと思いました。	7名
班の人と工夫してよりよい返歌をつくることができた。	6名
和歌のよさを知った。	4名



生徒の感想例

国語－２ 短歌の鑑賞文を書く事例

1 単元名：「短歌」		
2 単元の目標 短歌に詠まれた情景や心情を表現に即して読み味わう。		
3 取り上げる言語活動と教材		
(1) 言語活動 様々な短歌を読み比べ、心をひかれた短歌の内容や表現の仕方について鑑賞文を書く。		
(2) 教材 教科書収載の短歌6首		
	冬の夜の星君なりき一つをば云ふにはあらずことごとく皆	与謝野 晶子
	白埴の瓶こそよけれ霧ながら朝はつめたき水くみにけり	長塚 節
	手袋を脱ぐ手ふと休む／何やらむ／こころかすめし思ひ出のあり	石川 啄木
	春の鳥な鳴きそ鳴きそあかあかと外の面の草に日の入る夕べ	北原 白秋
	幾山河越えさり行かば寂しさの終てなむ国ぞ今日も旅ゆく	若山 牧水
	しんしんと雪ふるなかにたたずめる馬の眼はまたたきにけり	斎藤 茂吉
4 評価規準		
【関心・意欲・態度】		
・短歌に描かれた情景や心情を表現に即して読み味わおうとしている。		
【読む力】		
・短歌に描かれた情景や心情を表現に即して読み味わっている。		
【知識・理解】		
・短歌における表現の特色を理解している。		
5 主な学習活動		
(1) 単元の展開		
	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点
第1次	・単元の目標、および単元の流れをつかむ。 ・6首について正確に内容を理解する。	○鑑賞文のモデル（「短歌鑑賞辞典」などからの抜粋）を提示し、単元のゴール像を示す。 ○説明は、内容把握、文法的説明、句切れの確認にとどめる。
第2次	・心をひかれた短歌について「鑑賞文作成シート」を記入する。 ・同じ短歌を選んだ者	○「鑑賞文作成シート」のモデル（資料5 (p. 19)）を提示し、記述する内容をイメージしやすくする。 ○机をつけるやり方ではなく、同じ短歌を選んだ生徒が

	<p>同士で「鑑賞文作成シート」を読み合い、意見交換を行う。</p> <p>・教師による短歌についての説明を聞く。</p>	<p>一つの場所に集まるかたちをとることで、時間の短縮を図るとともに、だらだらとした話合いにならないようにする。</p> <p>○意見交換の目的を、他者の意見を知ることたげにとどめず、最も適当な解釈を作り上げることとする。</p> <p>○短歌を解釈する上で欠かせない、作者に関する文学史的な知識、作歌の状況や背景を説明する。たとえば、与謝野晶子の歌が夫の死後に作られたこと、斎藤茂吉の歌論である「写生」など。</p>
<p>第3次</p>	<p>・「鑑賞文作成シート」に基づいて鑑賞文を書く。</p> <p>・他者の鑑賞文を読み、相互評価を行う。</p>	<p>○自分が選んだ短歌とは異なる短歌についての鑑賞文を読むことによって、他の歌についての読みを深める。</p>



鑑賞文作成シートを読み合っている様子

【言語活動の充実の工夫及び改善点】

○単元の導入で、鑑賞文のモデル（「短歌鑑賞事典」などから抜粋したもの）を提示し、単元のゴール像を示す。

○鑑賞文を書く際の視点を持たせるために、「鑑賞文作成シート」に記述する活動を取り入れる。

「鑑賞文作成シート」の項目は次のとおりである。

- 1 短歌に詠まれている情景。
- 2 短歌に詠まれている詠み手の思い。
- 3 表現上の工夫や特色。
- 4 短歌を読んで考えたこと。

※改善点 項目4は指示があいまいでした。「心をひかれた点」「自己の感想」などにし、何を書くか明確にしておく必要がありました。詳しくは、後述の「成果と課題」(2)課題の②を参照。

○「鑑賞文作成シート」のモデルを提示し、記述する内容をイメージしやすくする。

※改善点 生徒はモデルに大きな影響を受けます。文体、書式はもとより、書かせたい内容と同じ観点でのモデル例を記入しておくことが必要です。詳しくは、後述の「成果と課題」(2)課題の②を参照。

○ 同じ短歌を選んだ者同士で「鑑賞文作成シート」を読み合い、他者の考えを付加したり、自己の考えを修正したりする。

※改善点 意見交換の目的が明確ではなかったため、他者の意見を知ることによって中心が置かれてしまいました。そのため、どの解釈が最も適切であるかという観点での意見交換が不十分でした。「鑑賞文作成シート」の項目1～3では共通した解釈に集約していく意見交換が必要でした。詳しくは、後述の「成果と課題」(2)課題の③を参照。

授業の実際

生徒の「鑑賞文作成シート」と「鑑賞文」の記述内容は以下の通りです。

○ 「冬の夜の」 与謝野晶子（選んだ生徒6名）

「鑑賞文作成シート」の段階では全員が「君」を「恋人」とだけ捉えていた。「君」はすでに亡くなっている夫、与謝野寛であると教師が説明を加えた。その結果、5名がそのことを踏まえて鑑賞文を書いていた。満天の星を「君」にたとえる表現の特色については全員が鑑賞文に記述していた。（資料1）

○ 「白埴の」 長塚節（選んだ生徒4名）

他の生徒との意見交換や教師の説明を受けて3名の生徒が本歌の特徴を「上品」「清涼感」「気品・冴え」という語句で記述できていた。「画賛の歌」という成立事情を教師が説明した。しかし、1名の生徒が触れているだけである。「画賛の歌」という成立事情を加えると鑑賞文が書きにくかったためであろう。

空を見上げればきらきら輝く満天の星。作者は
ただひとり寒空を見上げている。せき夫、鉄幹との
死別。いつまでもその悲しみがなくなることはなく、
今夜も空に輝く星を見て君を想う。空に輝く星
一つが君なのではない。その星が君なのだ。空から鉄幹
が作者を見守っている。いつまでも想い合うふたりを
表しているのである。

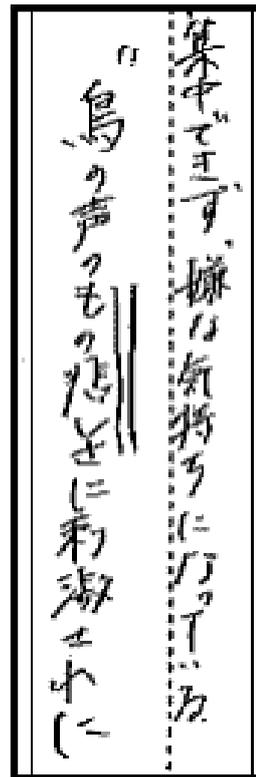
「冬の夜の」生徒の鑑賞文（資料1）

○ 「手袋を」 石川啄木（選んだ生徒8名）

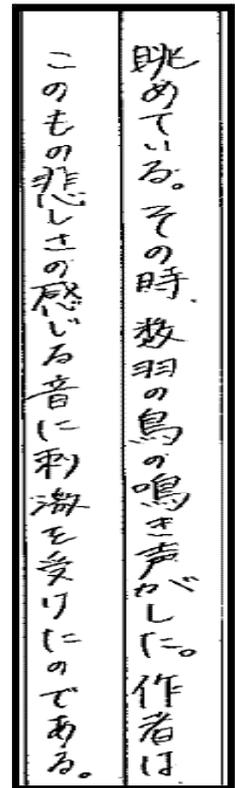
多くの生徒が「鑑賞文作成シート」の段階で「思い出」の内容を「子どもの頃のこと」「昔の恋人のこと」と想像し、意見交換においても想像を互いに述べ合うことに中心がおかれてしまった。その結果、鑑賞文においても、想像を膨らませた物語をつくってしまい、表現に即した読みから離れてしまった。（後述の「成果と課題」(2)課題の③を参照。）

○「春の鳥」 北原白秋（選んだ生徒6名）

「鑑賞文作成シート」の段階では3名の生徒が詠み手の思いを誤って解釈し、「美しい夕日を静かに眺めたいのに集中できず嫌な気持ちになっている。」と記入していた。しかし、他の生徒との意見交換後、「鳥の声のもの悲しさに刺激された」と修正することができた。（資料2）鑑賞文では、全員が誤った解釈を修正することができた。（資料3）



鑑賞文作成シート
の一部（資料2）



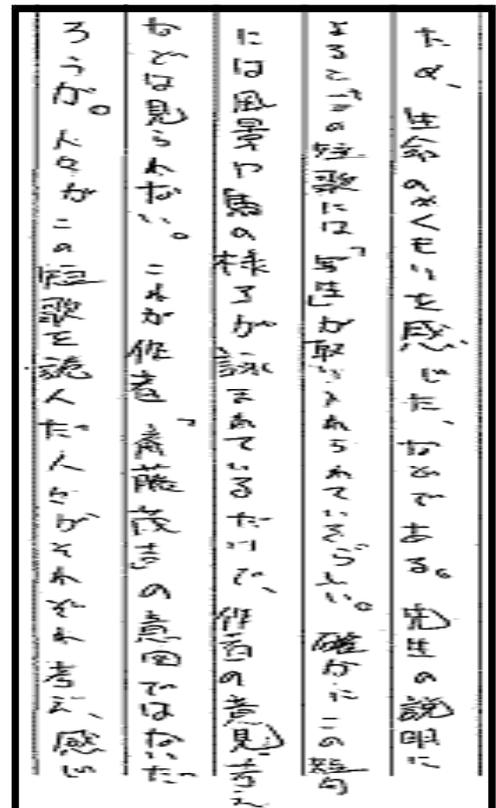
生徒の鑑賞文
の一部（資料3）

○「幾山河」 若山牧水（選んだ生徒6名）

多少の違いはあるものの、全員が詠み手の気持ちを正しくとらえることができていた。「幾山河」の「幾」の意味を辞書で調べ、「どれほど」という意味があることに着目し、「作者はかなりの旅をしていることがわかる。」との記述もあった。主体的な学習態度の表れだと言える。

○「しんしんと」 斎藤 茂吉（選んだ生徒6名）

「鑑賞文作成シート」の段階では全員が「馬の飼い主に対する忠誠心を詠んでいる。」「馬の眼光の温かさを感じる」などの深読みをしていた。教師が茂吉の短歌理論である「写生」について説明をした結果、鑑賞文においては、「作者の意見、考えなどは見られない。これが作者斎藤茂吉の意図ではないだろうか。」と修正することができた。（資料4）



生徒の鑑賞文の一部（資料4）

成果と課題

(1) 成果

①短歌に詠まれた情景や心情を教師が説明してしまうのではなく、まずは生徒に考えさせる授業を試みました。最初から教師がすべてを説明しますと、おそらく「ふーん。」で終わってしまっていたでしょう。曲がりなりにも自分なりの解釈をしたことによって、「そうだったのか。」という発見につながったと思います。

②事前に「鑑賞文」のモデルを提示するによって、生徒はゴール像が明らかとなり、見通しを持って学習に取り組むことができたようです。「鑑賞文作成シート」のモデルを提示することによって、何をどのように書いたらよいのか分かりやすかったようです。

③「鑑賞文作成シート」を互いに読み合う活動では、グループに別れ、机をつけるやり方ではなく、同じ短歌を選んだ生徒が移動して一つの場所に集まるというかたちをとりました。集中して意見交換ができ、時間の短縮につながりました。参観していた先生からは、「後方にいる生徒一人を指名し、その生徒のもとに集まるように指示をした方がよい。」という意見をいただきました。

(2) 課題

①評価規準を具体的に設定しておくこと。韻文のように多様な解釈が可能な教材において、どこまでを正答として認め、どこからを間違いとするか、教師があらかじめ明確な判断基準を持たなければならないと感じました。

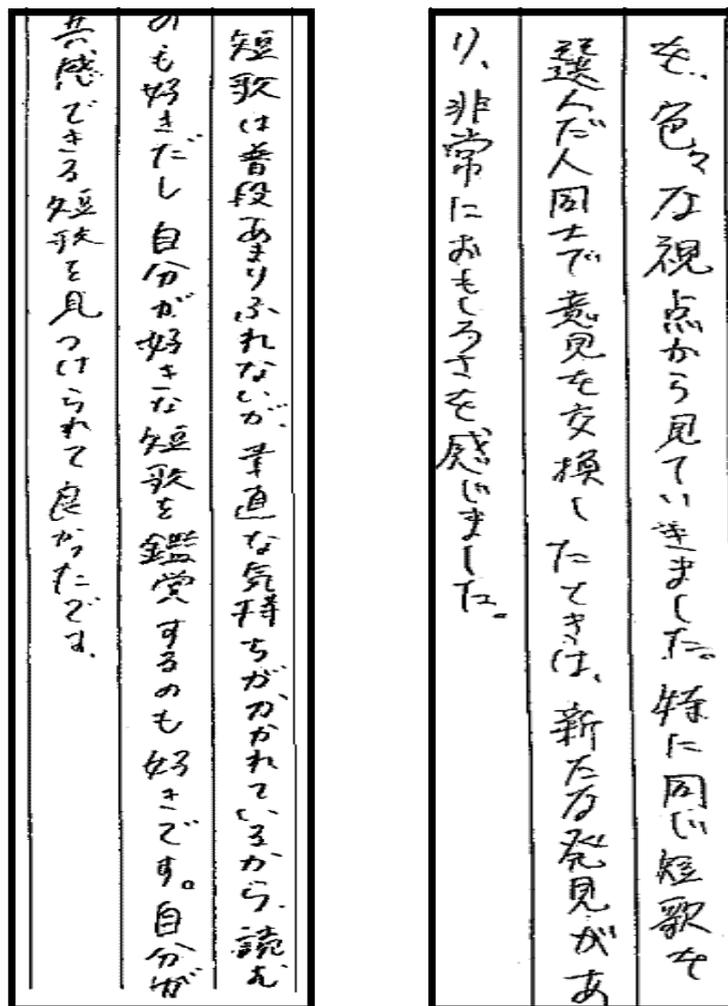
②「鑑賞文作成シート」の「短歌を読んで考えたこと」という項目があいまいでした。短歌を読んで自分が感じたことを書くのか、詠み手の状況を想像するのか、詠まれた事物について想像するのか、教師自身が明確にしていませんでした。シートの項目2「詠み手の思い」との違いも明確ではありませんでした。(モデル例も、自分が感じたことを記入していたり、詠み手の思いを想像していたり、はっきりとしていなかった。)項目4「短歌を読んで考えたこと」は、「この歌のよさ」とすべきでした。

③意見交換の際、誤った解釈を修正することよりも、多様な意見を出し合うことが中心になってしまいました。そのため互いの意見を修正し合うという観点での意見交換が不十分でした。原因は、互いの意見を修正していくための意見交換と多様な意見を知るための意見交換を同時に行ったためです。話合いやグループ活動を行う際には、何のために何を話し合うのか、目的と内容を明確にしておくことが重要であることを再度認識いたしました。

生徒の感想

単元終了後の生徒の感想です。(39名分。複数回答あり)

短歌を深く読むことができた。	15名
他の人の意見が参考になった。	11名
自分で考えることが楽しかった。	11名
短歌を深く読むことは難しいと思った。	9名
多様な解釈ができることが興味深かった。	2名



生徒の感想の一部

「この味がいいね。」と君が言ったから七月六日はサラダ記念日 たわらま ち
俵 万智

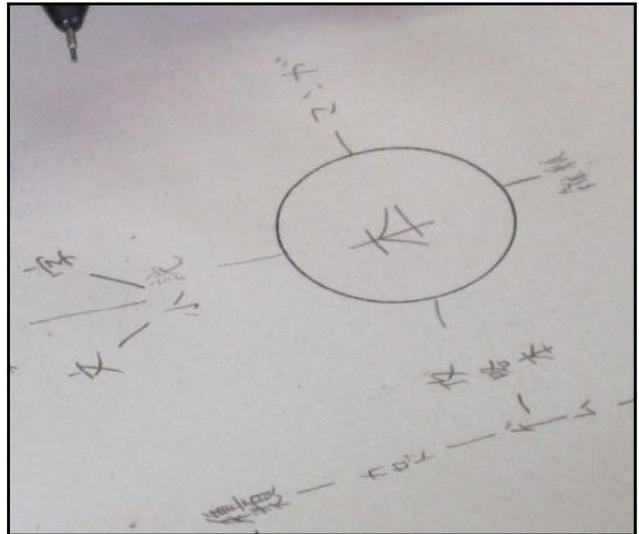
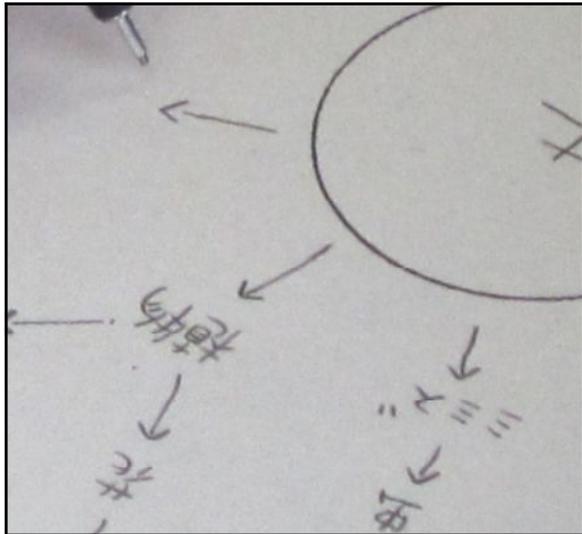
- 1 歌に詠まれている状況（季節・時間・天気・場所・人物など）
季節は夏。「君」は恋人。「君」のために作ったサラダを「君」がほめてくれた。
- 2 歌に詠まれている心情。
恋人からサラダの味をほめられてうれしい気持ち。
- 3 表現上の工夫や特色。句切れ。
体言止め。会話を使っている。「サラダ記念日」という命名のおもしろさ。三句切れ。
- 4 歌を読んで考えたこと。
これまで学習してきた短歌は、感傷的になりすぎていて、あまり好きではなかった。
この歌はさわやかで明るい点が好きである。

きみに逢う以前の僕に逢いたくて海へのバスに揺られていたり ながた かずひろ
永田和宏

- 1 歌に詠まれている状況（季節・時間・天気・場所・人物など）
海へ向かうバスに「僕」は乗っている。「きみ」は恋人。
- 2 歌に詠まれている心情。
「君」に出会ってから、変わってしまった自分が、本来の自分ではないような気がして、以前の自分に戻りたくなった。
- 3 表現上の工夫や特色。句切れ。
「海へのバス」は「海へ向かうバス」を省略している。「揺られていたり」と現在形で読まれている。
- 4 歌を読んで考えたこと。
海という悠久の自然を前にすれば、本来の自分を取り戻すことが出来ると思い、海に出かけているのだろう。

国語－3 物語を創作する事例

1 単元名：「メモからの発想」		
2 単元の目標：マッピング・メモで言葉を集め、言葉同志を関連させて一つの話をつくることができる。		
3 取り上げる言語活動と教材 (1) 言語活動 物語を創作する。 (2) 教材 教科書所載の図版		
4 評価規準 【関心・意欲・態度】 ・図版から連想した言葉をメモにとり、言葉同志のつながりを考え、物語を創作しようとしている。 【書く力】 ・図版から連想した言葉をメモにとり、言葉同志のつながりを考え、物語を創作することができる。 【知識・理解】 ・文や文章の組立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにすること。		
5 主な学習活動 (1) 単元の展開		
	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点
第1次	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の見通しを持つ。 ・メモの重要性を知る。 ・マッピング・メモの練習をする。 <p style="text-align: center;">(資料1)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○図版から連想した言葉をメモにとり、言葉同志のつながりを考え、物語を創作するという学習の流れを説明する。 ○昨年度の生徒作品や教師の作品をモデルとして提示し、ゴール像を示す。 ○メモとして書き出すことによって一つの言葉から新しいイメージや考えが生まれることを実感するために、実際にマッピング・メモをやってみよう伝える。 ○自分の好きな言葉から連想される考えやイメージを、矢印でつなげながら書き出していく。その際、メモの内容を取捨選択しないこと、連想の矢印を放射状に広げること、消しゴムを使わないこと、鉛筆を持って考えることを注意点とする。

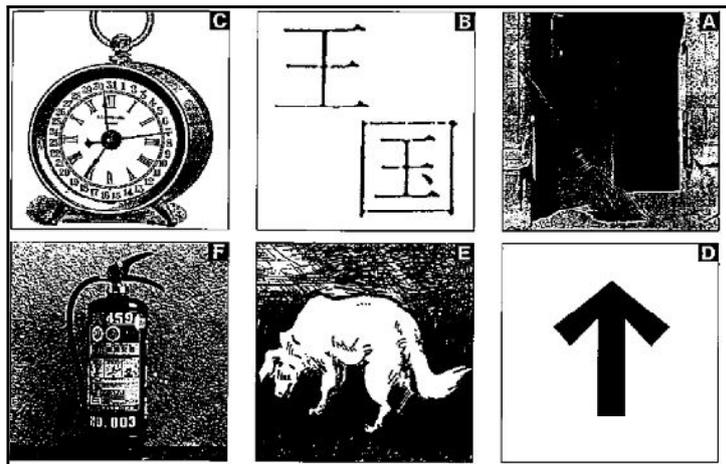


資料1 マッピングの練習風景

第2次

・右に載せている6枚の図版（A～F）から3枚選び、それぞれの図版についてマッピング・メモを作成する。

○生徒の実態に応じては、選ぶ図版の数を1枚もしくは2枚にする。



図版6枚（Aは、家の扉に^{ほうき}箒がたてかけてある写真）

・マッピング・メモに書き留めた言葉の中からキーワードを1つ選び、そのキーワードを中心として、他の言葉とのつながりを考えながらストーリーを考える。

○ストーリーを考えやすくするために、キーワードに関して次のような問いを発し、答えをメモとし記述させる。

- ①その周りには何がありますか。
- ②見た目や色彩はどうですか。
- ③どんな音がしますか。
- ④何か違うところ、気になるところ
- ⑤なぜ気になったのですか。

- ①その周りには何がありますか。 (ぼうし・家・ねこ・女・飛ぶ・つえ)
- ②見た目や色彩はどうですか。 (人間・悪い人?)
- ③どんな音がしますか。 (ねこの鳴き声)
- ④何か違うところ、気になるところ (実はいい人)
- ⑤なぜ気になったのですか。 (まじよは悪い人というイメージがあったから。)

(3) キーワード、発想メモの言葉、問いに対する記述をもとに、構成メモを作成する。

(4) 構成メモをもとに物語を書く。

れ	魔	い	一	て	た	人	が	家	音
ま	法	い	つ	い	魔	の	家	の	
し	ま	ん	間	た	せ	声	の	扉	地
た	ま	で	び	た	で	が	こ	を	下
魔	か	ず	て	け	し	し	え	あ	探
せ	け	か?	み	ど	た	ま	ま	け	い
は	て	え	ま	、	私	し	した	る	所
ど	下	れ	した	本	は	た	す	と	に
っ	士	と	た	当	魔	黒	る	ニ	魔
ち	い	も	一	の	せ	い	と	ナ	せ
ド	し	悪	つ	魔	が	服	ッ	ト	の
た	す	い	魔	せ	い	と	だ	と	家
ん	ると	ん	せ	は	る	ぼ	れ	い	が
で	私	で	さん	わ	こ	う	だ	う	あ
し	は	す	あ	か	と	し	い	鳴	り
よ	家	か?	な	ら	ほ	ま	い	き	ま
う	に	一	た	な	知	か	?	声	した
?	帰	つ	は	の	っ	ぶ	と		
	さ			て					

生徒作品の例 (タイトルは「魔女の家」)

授業者による成果と課題

(1) 成果

文章を書くことに苦手意識を持っている生徒に対して、文章を書くことの楽しさを味わせたいと考え、物語の創作を試みました。40名中32名の生徒が300字以上の文章を書くことができました。物語とは言えないものもありますが、これほど多くの生徒が300字以上のまとまった文章を書けるとは思いませんでした。また、マインドマップ・メモについてはすべての生徒が興味深く取り組んでいました。頭の中で考えていただけでは浮かばないアイデアが、言葉に書き出すことによって次々と広がっていくことを生徒は学びました。

(2) 課題

マインドマップ・メモの作成までは全員が上手くすすんでいきました。しかし、問いに対する答えを考えるとところで筆の止まった生徒が見受けられました。口頭で問いを述べるのではなく、プリントにきちんと項目として質問内容を記入しておくべきでした。

生徒32名の文章を見てみると、テーマがはっきりとしていないもの9名、状況説明で終わっているもの13名、何か出来事が起こったところで終わっているものが2名、出来事が起こり、その出来事についての結果が書かれているものが8名でした。「起承転結」のある物語を作ることができた生徒は4分の1という結果となりました。その原因として、次の2点が考えられます。

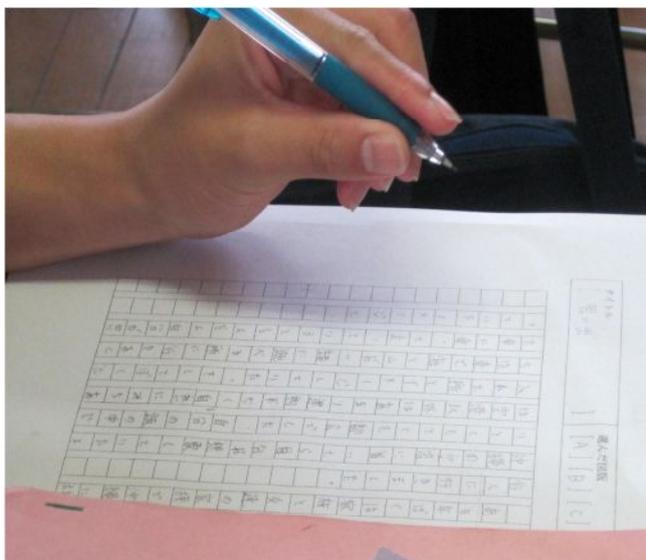
①テーマを提示しなかったこと。

②出来事が起こり、それがどうなったのか、ということを書かせる手立てがなかったこと。

改善の方策として、次の2点を考えています。

①生徒にテーマを持たせる必要がある。キーワードをつないでストーリーを作る際に一貫したテーマがあった方が書きやすい。たとえば、「青春」「夢」「卒業」など。

②物語の「転結」にあたる部分を書くことができるように、「④⑤をきっかけとしてどのような出来事が起こったか、その出来事はその後、どのようになったのか」という問を加える。



生徒が物語を書いている様子